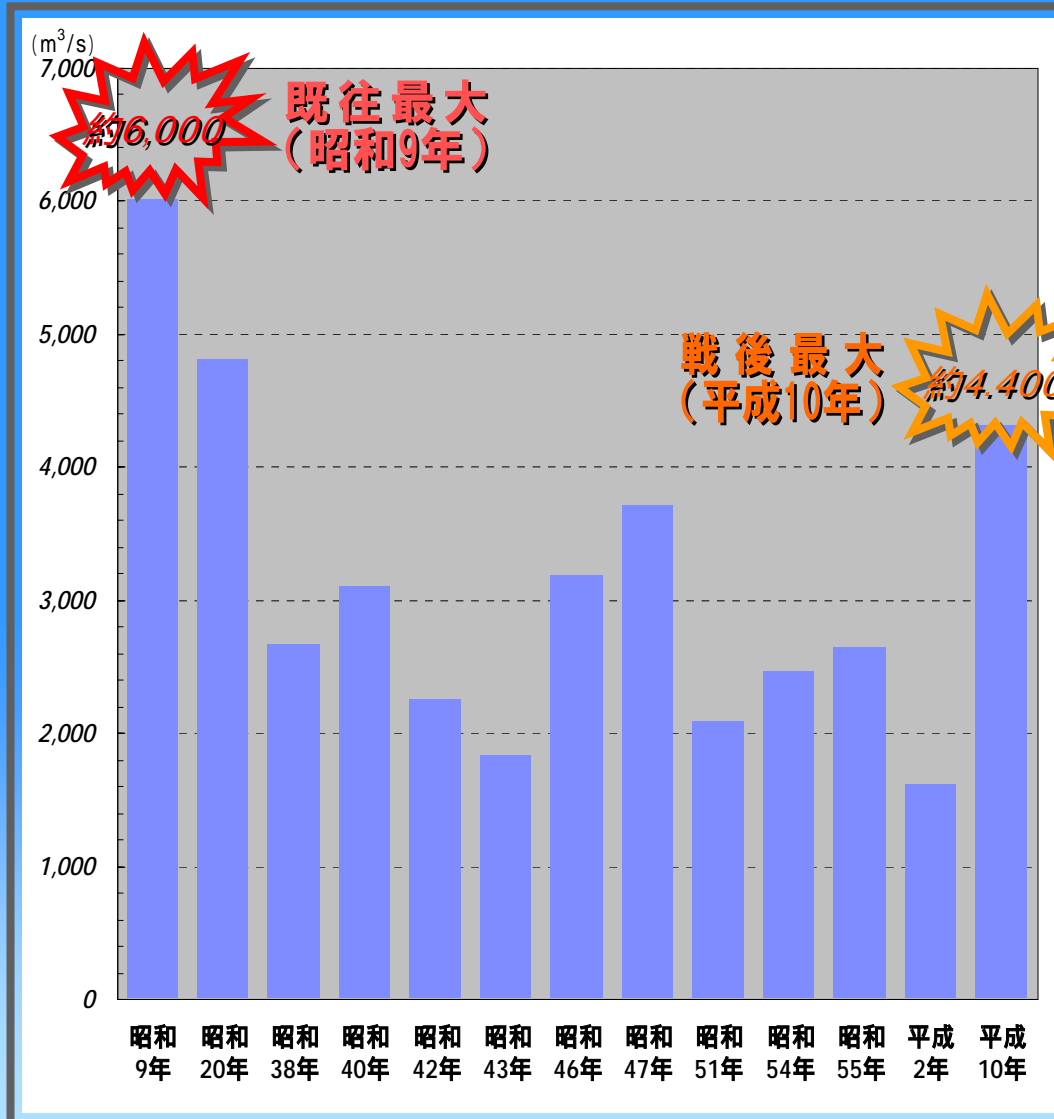


2. 過去の洪水を振り返る

2-1 . 過去の主要洪水

過去の主要洪水における出水量



昭和9年の洪水が既往最大

- ・ 出水量 : 約6,000m³/s
- ・ 2日雨量 : 226mm
- ・ 水位 : 9.50m
(地点: 下牧)

平成10年の洪水が戦後最大

- ・ 出水量 : 約4,400m³/s
- ・ 2日雨量 : 182mm
- ・ 水位 : 9.16m
(地点: 下牧)



「毎秒6,000m³もの水」・・・とは？

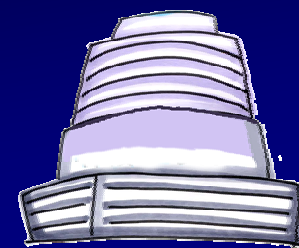
昭和9年の洪水では、「1秒間に6,000m³」もの水がとめどなく旭川、百間川を流れ、多くの被害をもたらした。

もし「毎秒6,000m³もの水」が
岡山シンフォニーホールに流れ込んだら？

約42秒で溢れてしまう。

○岡山シンフォニーホールの体積 = 約25万m³

〔建築面積:4,239m² 建物高さ:59.8m〕



2日雨量とは？

昭和9年の洪水では、2日間で226mmの雨量が観測されている。年間降水量の約20%が、2日で降った換算となる。

年間降水量（岡山県南部）
約1,200mm
（1971～2000年の平均）

昭和9年の洪水の状況（岡山市 城下交差点）

既往最大出水量
：約6,000m³/s

< 岡山市全域の被害状況 >

- ・死者 : 18人
- ・負傷者 : 105人
- ・床上浸水 : 17,865戸
- ・床下浸水 : 不明

昭和九年九月二十一日洪水浸水線
東京湾中等潮位上 六米一三糎



当時の浸水位を表す標識
(中国銀行本店)

洪水時の状況



通常時の状況



平成10年の洪水の状況（岡山市 東西中島地区周辺）

昭和9年洪水は、この
約1.4倍の出水量

東西中島地区周辺で、浸水被害が生じた。

< 東西中島地区の被害状況 >

- ・ 床上浸水：14戸
- ・ 床下浸水：43戸



通常時の状況

洪水時の状況

平成10年の洪水の状況（百間川分流部周辺）

昭和9年洪水は、この約1.4倍の出水量

「一の荒手」と「二の荒手」の一部が破壊するとともに、旭川からの逆流により、中原地区周辺で浸水被害が生じた。

< 中原地区周辺の被害状況 >

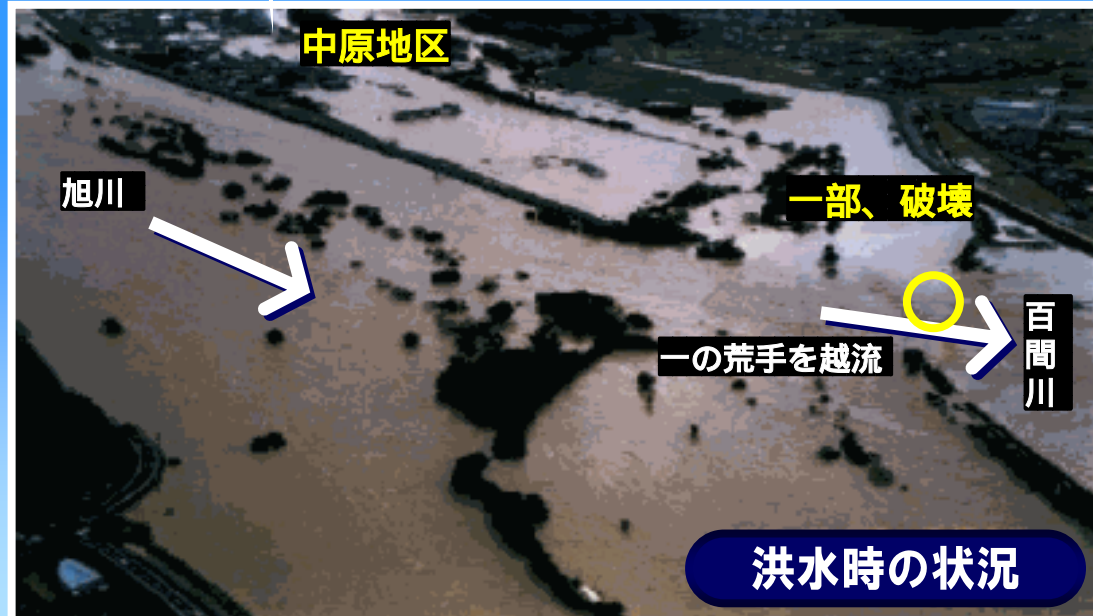
- ・ 床上浸水：15戸
- ・ 床下浸水：8戸



「一の荒手」の破壊状況



「二の荒手」の破壊状況



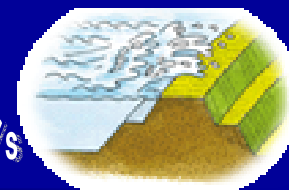
2-2. 昔と今における洪水要因の変化

最近起こった「平成10年の洪水」



岡山市域で堤防の越流
や決壊の危険が生じた。

出水量：約4,400m³/s



過去、100年間では・・・

岡山市域を襲った洪水の内、
「平成10年」以上の出水量
を記録した洪水は・・・



昭和9年 洪水

出水量：約6,000m³/s



昭和20年 洪水

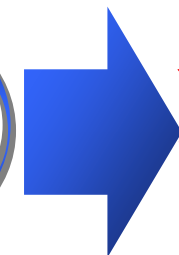
出水量：約4,800m³/s



発生している。

さらに、今は昔と比べ・・・

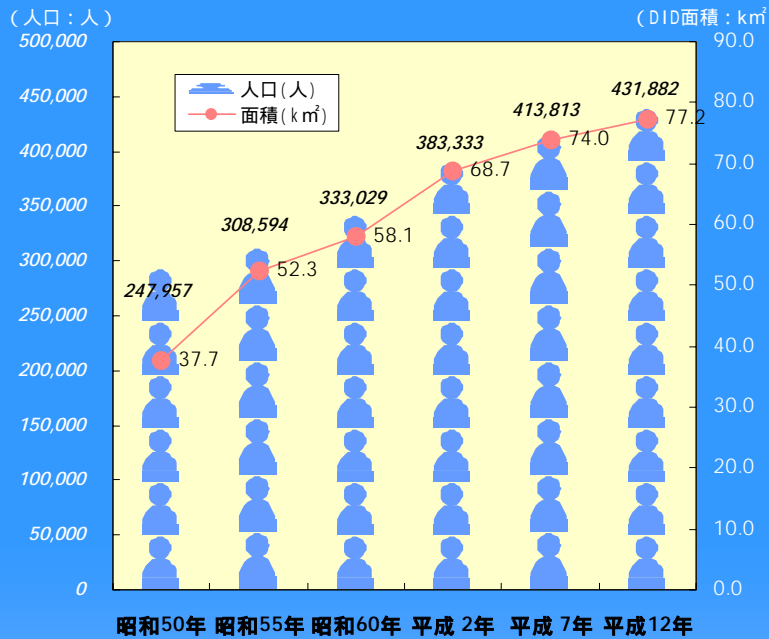
市街化の進展などによる
土地利用の高度化



洪水から守るべき地域の拡大

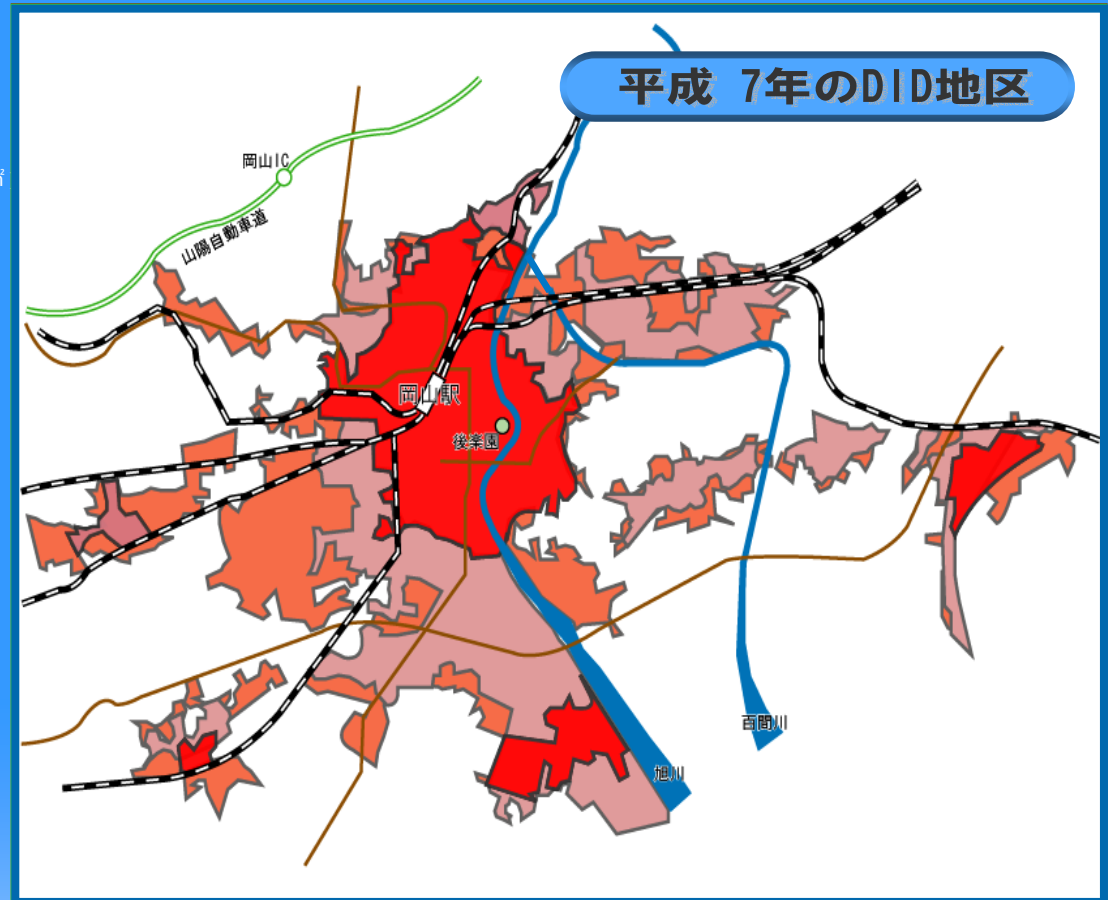
市街化の進展などによる土地利用の高度化




旭川・百間川を包括する岡山市街地は、20年間に概ね2倍に広がっています。



【市街地の進展状況】（資料：国勢調査）

（注）D I D：人口集中地区（Densely Inhabited District）。国勢調査区を基礎単位とし、市区町村の境界内で人口密度の高い調査区（原則として人口密度が40人/h a以上）が隣接して人口5,000人以上の集団を構成する地域をいう。物的な市街地の広がりを画定する指標として、昭和35年の国勢調査から採用された。



	昭和40年DID地区
	昭和55年DID地区(追加)
	平成7年DID地区(追加)

【岡山市のD I D（人口集中地区）の変遷】（資料：岡山市の都市計画）